

特別支援学校 学校評価一覧表② (令和元年度版)

(様式2)

羅 針 盤		※各学校 で設定	達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	次 年 度 の 課 題	
評価対象	評価項目		具体的数値項目	①	②			総合
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	「教育活動の取り組みを、保護者や地域に対して十分に伝えている」と保護者や職員の80%が答えている	教務 渉外 情報管理	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も継続的に大学生の見学を受け入れた。昨年同様の数、一昨年の1.5倍の見学者であった。介護施設対象の説明会では、年々増加の傾向である。 保護者同様に地区の方にもマラソン大会の要項を配付した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページをタイムリーに更新できるよう係分担、情報の集約システムを構築する。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	「個別の教育支援計画」が有効に利用されていると、保護者・教員の80%が答えている。 学校説明会や学校公開を年間3回実施し、アンケートの結果、来場者の80%以上が本校に関しての理解が深まったと答えている。	教務 生徒指導 学習指導	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と意見交換する際、また、関係機関との教育支援会議等での活用は、充分されているが、その後の見直しが充分されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に活用できるように今年度同様、様式等を検討する。また、定期的な見直しを充実させ、更なる活用を図る。
			教務 渉外	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 行事や情報開示の際に、学校案内に加え、学校ホームページや地域の回覧板や広報等を活用して周知徹底を図った。 地域（駅）の花壇の清掃と飾花を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開と同時に地域の方との交流活動を充実させる。 学期に一度発行するPTA新聞を地域回覧板を利用し、回覧してもらう。
II 地域の特別支援に関するセンタースタッフ的な役割を果たしていますか。	3 西部エリアの高等学校等に財政する障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	相談を年150回程度実施している。	生徒指導	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 一昨年度からの継続活動（サポートちらし配付等）により理解が深まり、利用が増えた。3回のちらし配付ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 障害を有すると思われる児童生徒が増加傾向にある。よりきめ細かな関わりができるよう努める。
		訪問して行う相談について、支援の提案等を100%文字データでフィードバックしている。	生徒指導	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 手交用相談記録作成に1から2週間程度必要としていたが、回数が増え、経験値が上がることでフィードバックするまでの時間が短縮されている。更に、わかりやすい記録作成を心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談対応スケジュール等を検討し、更に、速やかなわかりやすい記録のフィードバックに努める。
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	学習指導の場面で「個別の指導計画に基づいた、きめ細かな指導が行われている」と保護者・教員の80%以上が答えている。	生徒指導 渉外 学習指導	B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 「個別の指導計画」指導目標等を保護者と共通理解の基で取り組んできたが変更等見直しのところでまだ不十分と考える職員が多い。保護者64%は、満足できると回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> 見直しと活用について、今後も検討を継続し、不十分と考える要因を探る。
		生活指導の面で「生徒各自の生活課題や実態に応じた生活指導を行っている」と保護者・教員の80%以上が答えている。	生徒指導	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員・保護者ともに98%がほぼ満足（評価A、B）であると回答しているがやや不満足（評価C）と回答している家庭の生徒は、不登校の生徒であり、情報の提供が不十分と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校の生徒・保護者に登校できている生徒・保護者以上に詳細に、具体的に情報を提供する。
				B	A	B	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止や早期発見に積極的に取り組んでいるとほとんどの保護者が評価しているがやや不十分と評価している保護者は、不登校の生徒の保護者である。また、IT機器、スマートフォン等の環境が整っていない家庭である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校からの情報提供や状況報告を詳細に行うことで評価Cポイントは、下がると考える。提供、報告を詳細にすることで職員の負担が増加するので方策を検討する。
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	「指導内容が確実に定着し、成長が認められる」と保護者・教員の80%が答えている。	教務 生徒指導	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> マンツーマンに近い指導である普通科の職員が授業参観に参加できるように配慮しないとポイント上昇は、望めない。参観授業を設定しないで、いつでも空き時間に他の職員の授業を参観できるようにすると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> いつでも空き時間に参加できる環境と雰囲気にすることが今後の課題である。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	生徒の健康に関する情報提供を年間12回以上実施し、学校保健委員会を年間2回実施している。健康上の配慮や対応について、保護者の80%以上から理解を得ている。	保健保安	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の健康管理について保護者との連携、共通理解は、図られている。校内における環境整備の充実や共通理解の強化を図った。学校医さんのアドバイスを活用し、生徒や保護者の健康に関する意識を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内における環境整備の更なる充実と共通理解の更なる強化を図る。学校保健委員会事前に学校医等に本校の現状の課題を提示して準備時間を設ける。また、感染症対策としては、学校医との連携、学校医からのアドバイスは、重要である。更に連携を密にする。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	緊急時の対応や避難経路について、生徒・教員の80%以上が理解している。	保健保安	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時の対応、訓練実施に保護者の参加、見学を実施した。また、地域の方の避難訓練等への参加を促した。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の参加を増やすことと地域の方の避難訓練や救命装置の使用方法、説明の具体的な提案を可視化する。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	生徒・保護者の80%以上が、それぞれの能力を踏まえ、「将来の明確な目標を持ち、努力している」と答えている。	進路指導	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 進路及び学年を中心に組織的な支援体制は、強固なものとなってきている。定期的な実習以外でも個に応じて回数、期間を増やし、進路意識の高揚を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年間で6回の実習を計画しているが、今年度のような個に応じて実習の設定変更や増減しなくてはならない状況を想定して対応する。
	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	進路に関する配布物をはじめ、学校から提供される進路指導に関する情報が役立っていると保護者・教員の80%以上が答えている。	進路指導	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 低学年から計画的な進路指導、支援を行うことができた。1・2年保護者の企業見学会は、実施できなかったが、生徒だけでなく保護者にも早い時期から情報を提供し、意識を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒だけでなく保護者の意識高揚を図る。進路セミナーやネットワーク相談会等は、効果的である。また、企業見学会等も重要であるので継続する。